

アルコール依存症女性の治療と回復について

大阪府断酒会酒害相談講習会 第9日（令和4年9月27日）

阪和いずみ病院アルコール依存症病棟担当医師 角田三穂子

当院のアルコール依存症病棟に入院してこられる患者さんの約半数は女性の患者さんです。彼女達は、単にお酒が大好きでたくさん飲み続けていたらいつの間にか依存症になってしまった。といった単純な話ではなく、様々な問題を抱えながら、お酒を上手に使って過酷な状況を生き延びてきた人がほとんどです。今回の講習では、女性たちの抱える問題の中でよく目にするもの、例えば、ACの問題、複雑性PTSDの問題、重複障害の問題、引きこもりの問題など、皆さんもよく耳にされると思いますが、それらの問題が一体どのようなもので、どのような背景から起こってくるのか、その問題は彼女達の人生や生活にどのような影響を与え、新たな問題を生み出しているのか、回復にはどのようなことに気をつけていけばいいかをまとめていこうと思います。また、各々の問題ごとに、どのような治療や支援が必要になるかについて支援者側の視点にも立って考察したいと思います。

また、数年前からさかんに児童精神科の分野で話題になっている複雑性PTSDについても少し触れていこうと思っています。複雑性PTSDについては、もう随分と浸透してきていますので、ご存知の方も、そうでない方もいらっしゃると思うのですが、決して小児の分野に特記した問題ではなく、アルコール依存症の分野でも密接に関係がある問題です。というのは、大人になっても複雑性PTSDの問題が未解決のまま、依存症を合併することで生き延びている方が、かなり多くいらっしゃるからです。病院や支援者にとっては、対応に苦慮することが多いタイプの依存症の方で、どのように援助していいか分からない、うまく関係が作れないという声をよく聞きます。実際、病棟でも既存のプログラムをすんなりこなされ、一直線に回復なんてことはほとんどなく、知恵をしぼりながらなんとか対応しているのが実際のところだと思います。そこで、複雑性PTSDとは一体どのようなものか、どのように依存症と関係しているのかなど、トラウマ専門家ではない小医なりにお伝えできればと思っています。また、トラウマの専門家がない当院で行っている対応の工夫などについても紹介させていただきます。